

接続詞と節の見取り図

年 組 番 名前 _____

この紙のゴール：節の種類を見分け、相関接続詞でAとBの形をそろえられる

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 4つのはたらきに加えて、相関接続詞 (not only A but also B ほか) まで

気づき AとB、どちらも when の節がある。でも文の中でののはたらきが正反対。どこがちがう？ (30秒考えて、となりの人と答え合わせ)

A	When the concert starts, please turn off your phone.	コンサートが始まったら、携帯の電源を切ってください。
B	Nobody knows when the concert will start.	コンサートがいつ始まるのか、だれも知らない。

たしかめ方はひとつだけ—その節を () で囲んで、外してみる。Aは外しても Please turn off your phone. が残るので、when の節はいつの話かを足しているだけ。Bは外すと Nobody knows. だけになって「何を」が消えるので、**knows** のうしろの席そのものです。前者を「副詞のはたらきをする節」、後者を「名詞のはたらきをする節」と呼びます。

整理 5つのはたらき (相関接続詞まで)

形	作り方	表すこと	例文
名詞節① that	that + S + V (席に入る)	～ということ	I think that he is right. 彼は正しいと思う。
名詞節② if / whether	if / whether + S + V	～かどうか	I asked whether the shop was open. その店が開いているかたずねた。
名詞節③ 疑問詞	疑問詞 + S + V (疑問文の語順にしない)	いつ・どこで・なぜ～か	Tell me what you want. 何がほしいか教えて。
副詞節	when / until / because / though + S + V	いつ・なぜ・～だけれど	Though he was tired, he kept running. 疲れていたが、彼は走り続けた。
相関接続詞	not only A but also B / both A and B	AだけでなくBも	He is not only clever but also kind. 彼は頭がいいだけでなく親切だ。

ここから高校の新しいところです。not only A but also B/both A and B/either A or B は、AとBに同じ種類のものを並べるのが約束—名詞なら名詞、動詞句なら動詞句。そろっていないと、どこまでがAなのか読み手に分かりません。あわせて「～だけれども、しかし」を2回言わないことも約束に。

確認 () 内から正しいほうを選ぼう。 **知識・技能**

- (1) I asked her (because / whether) she had finished her report or not.
- (2) Tell me (what / that) you want for your birthday.
- (3) Do you know where (the post office does / the post office is) ?
- (4) (Because / Though) it was raining hard, the game was not canceled.
- (5) He speaks not only English (and / but) also French.

接続詞と節の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	whether	「～かどうか」は whether か if。whether はかたい場面や書き言葉で好まれる。
(2)	what	「何が」に当たる語が節の中に足りないので疑問詞 what。tell の2つ目の席に入る。
(3)	the post office is	疑問詞の節はS + V の語順。文全体は疑問文でも、節の中はひっくり返さない。
(4)	Though	「激しい雨」と「中止にならなかった」は逆向きの内容なので譲歩。Because だと理由になってしまい、意味が通らない。
(5)	but	not only A but also B はセットで覚える。AとBには同じ形（ここでは名詞の English と French）を並べる。

つまずき② 疑問詞の節を疑問文の語順にする

文全体が疑問文でも、節の中は S + V のままです。日本語では語順が変わらないので、英語だけで起きる事故。声に出すときも「疑問詞のあとは主語から」と唱えると定着します。

× Could you tell me when does the next bus leave? → ○ Could you tell me when the next bus leaves?
when の節は tell の2つ目の席に入っている。席に入るときは does を使わず、動詞をそのまま置く。

つまずき① 接続詞の顔で節の種類を決めてしまう

「if は条件」「that はということ」と語で覚えると、同じ語が両方に使われる文で止まります。決め手はいつも外しても文が残るか。残れば足しているだけ、壊れれば席に入っています。

× I am not sure if you will like it, we can change the plan. → ○ If you do not like it, we can change the plan.
「気に入らなければ計画を変えられる」と言いたいなら、if 節は外から足す側。I am not sure ... と始めると席に入る読みになり、2つの文がつながらなくなる。

つまずき④ 相関接続詞のAとBで形がそろわない

not only A but also B は、AとBに同じ種類のものを並べるのが約束です。ここがそろっていないと、どこまでがAなのか読み手に分かりません。

× He not only plays the guitar but also he sings very well. → ○ He not only plays the guitar but also sings very well.
Aが plays the guitar (動詞句) なので、Bも sings very well (動詞句) にそろえる。he を入れると文と句が並ぶことになる。

つまずき⑤ 日本語の「～だけれど、しかし」を2回言う

日本語は「～だけれども、しかし…」と両方置けますが、英語はどちらか一方です。1つの関係を2回示すと文が壊れます。

× Though I was very tired, but I finished my homework. → ○ Though I was very tired, I finished my homework.
though がすでに「～だけれど」を示している。but を残したいなら I was very tired, but I finished my homework. と though を外す。

授業のひとつ 導入は when の2文だけで十分です。そのあと1分、教科書の本文から接続詞のある文を2つ選ばせてください—節を（ ）で囲んで外してみるだけで、節の種類が「覚えるもの」から「試せるもの」に変わります。

